

報告事項キ

青谷上寺地遺跡の発掘調査成果について

平成23年度に行った青谷上寺地遺跡の発掘調査の成果について、別紙のとおり報告します。

平成24年1月13日

鳥取県教育委員会教育長 横濱純一

青谷上寺地遺跡の発掘調査成果について

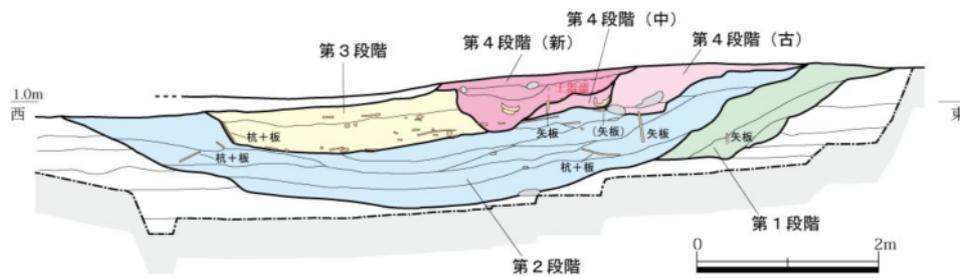
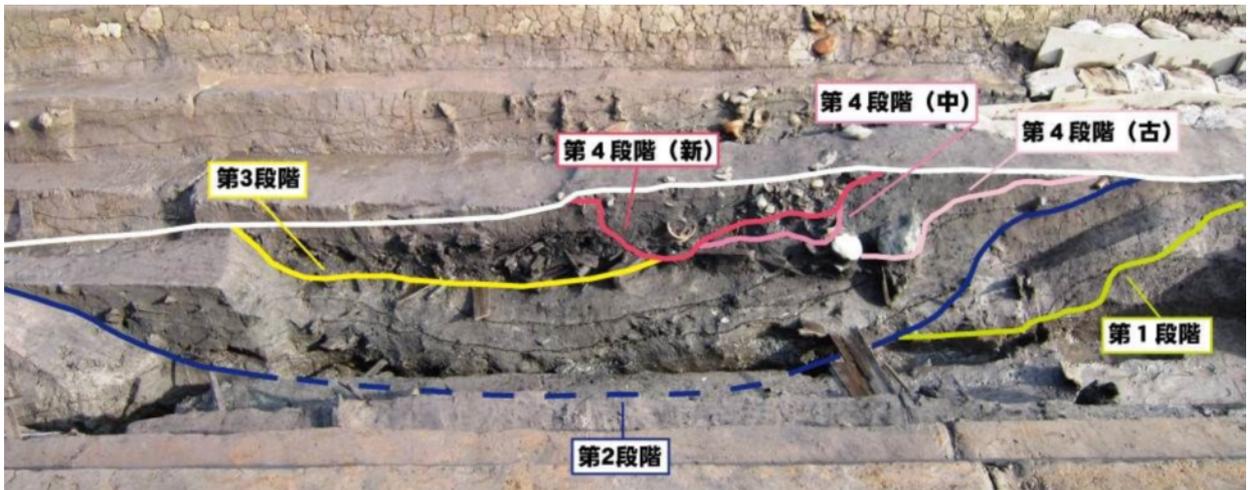
平成24年1月13日
文化財課

平成23年度発掘調査（第13次調査）の概要と成果

- 1 調査面積 180m²
- 2 調査期間 平成23年5月30日～12月9日
- 3 調査主体 鳥取県埋蔵文化財センター
- 4 調査目的 遺跡中心域西側区画溝（SD11）の変遷過程の確認など
- 5 調査成果
従来、弥生時代後期と考えられていたSD11の掘削時期が、層位的に弥生時代中期後葉に遡ることが明らかとなった。
上記の結果、SD11の変遷過程が、弥生時代中期後葉から古墳時代前期初頭（1世紀から3世紀前半）にかけて、大きく4段階あることが明らかとなった。
最終段階の溝は3時期に細分されることが明らかとなった。



第13次調査の位置



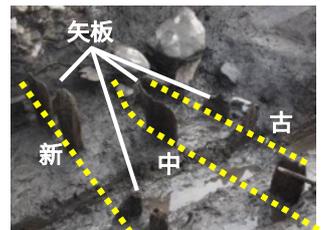
第1段階
矢板による護岸



第2段階
横板と杭による護岸



第3段階
横板と杭による護岸



第4段階
矢板による護岸

SD11 完掘状況写真（上：南西から）・断面図（中）・護岸構造の変遷（下）